



## 「ボランティアはできることを、 できる範囲で」

“命の授業”で全国の少年院を巡り、独自の漢字を使った授業を通して、生きることや命の大切さを伝えているゴルゴ松本さん。ボランティアを始めたきっかけや続ける理由をお聞きしました！

### ■なんで少年院で講演？

少年院での講演をはじめたきっかけは、2011年の知人からの依頼でした。最初は「なんで少年院？」と思っていましたが、知人の熱意に根負けし、依頼を受けることにしました。最初はあまり深く考えずに「会話しに行こう」

と自然体のスタンスで行きましたね。

およそ150人の少年の前で講演が終わった直後、外に出たら風が心地よく「人として、今できる範囲の良いことをした」という気持ちが沸き上がり、「これは続けていこう」と思いました。この感覚があるからこそ、ここまで続けてこられたと思っています。

今では運命の出会いだと感じています。講演の中で「人間ってお母さんの頑張りで産まれているんだから、みんなお母さんや世の中の女性には感謝してほしい」という話をしています。出所した子の母親から”初めて「お母さんありがとう」としゃべってくれた」という感謝の手紙をもらったことがありました。これには自分も大きく心が動かされました。講演時間の90分しか会えないけれど、彼らのうち1人でも何らかの気づきを得てもらえば成功だと思っています。少年院での講演は、「ボランティア」という感覚はあまりなく、自分のライフワークの一つとして行っています。行けるときに行くというスタンスでやっているから続けていられます。

## ■ボランティアは「愛！」

ボランティアを漢字で表すと、やっぱり「愛」ですね。「愛」は「手(手伝う、さしのべる)」と「足(歩み寄る、駆け寄る)」と「心(まごころ)」で出来ています。愛のお裾分け、支え合うという意味で、まずは挨拶！僕は挨拶を大切にしていますね。挨拶って気持ちいいじゃない！会釈でもいいし。挨拶をするとね、相手に何かしらのきっかけを与えられると思っています。

## ■これからボランティアをしてみたいと考えている方へ

(ボランティアを)やりたい気持ちを持っておいて、タイミングが来たらやればいい。きっかけ次第ですよ。少年院での講演もそう。依頼があったから始めました。“ボランティア”

っていうとハードルが高く感じてしまいますが、“お手伝い”と同じ意味ですよ。だからボランティア活動って何でもいいんですよ。結局は人と人とのつながりだと思います。それともう1つ。“思う”ということは心が動き始めているということ。思い立ったが吉日ということわざがあるように、その先は行動のみ！自分が幸せになるためにも、ボランティア精神を使ってみてはどうでしょうか。月に1回でも、週に1回でもいい、自分のできる範囲で楽しんで。



## プロフィール

1967年生まれ、埼玉県出身。

お笑いコンビ「TIM」のツッコミ担当として活躍。「命」「炎」「祝」の文字を身体で表現する持ちネタが有名。漢字の成り立ちや日本の歴史に独自の解釈を加え、命や言葉、人生の大切さを伝える「命の授業」を行っている。2011年から少年院での講演を行い、2018年に法務省から要請を受けて「矯正支援官」に任命された。



『Youtubeチャンネル』⇒

